

問題の未然防止活動を推進させよう

# DR/DRBFM実践研修

開催日時	2026年 5月19日(火)	大阪会場	オンライン選択可	各回とも 10:00~17:00
	2026年 7月29日(水)	大阪会場		
	2027年 2月12日(金)	オンライン		
対象	設計・品質管理・品質保証・生産技術部門の方			
講師	中山 聡史氏 (株)A&Mコンサルト 代表取締役社長	参加料(税込)	法人会員：60,500円/1名 会員外：71,500円/1名	<small>※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。          ※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)          ※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。  <a href="https://www.jma.or.jp/membership/">https://www.jma.or.jp/membership/</a>          ※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。</small>

**ねらい**

生産管理部門、製造部門の革新は進んでいますが、QCDの根幹を決める設計部門の革新・改善がなかなか進まない、とお悩みの方も多いのではないのでしょうか。  
 特に品質の部分については、消費者ニーズの多様化や、要求品質の高まりなどにより、多くの設計起因の問題が発生しています。  
 これらは、設計段階で問題の予測が出来ていないことが問題なのです。  
 本セミナーでは、ものづくりを始める前に問題を把握し、未然防止ができるよう、DRやDRBFMの具体的な実践手法について学んでいただきます。設計部門の改革・改善を推進したい方、フロントローディング開発を実現させたい方におすすめです。

- このような課題をお持ちではないですか？**
- ☑ 組立性、加工性を考慮した設計がされておらず、製造現場で組付け修正や手戻りが発生する
  - ☑ 市場不具合がどうしても再発してしまう
  - ☑ 過去に発生した問題の見える化ができていない
  - ☑ DRの場が、担当者の「つるしあげ」になっていて本来の目的を果たせていない
  - ☑ 取組みが形骸化してしまっている

**参加者の声**

- 他の方々も同じような課題を抱えていることが分かった。あるべき姿が理解できたので、今後の業務に活かしていきたいと思う。
- 今までの進め方に誤りがあったことを認識できてよかった。実践するためのポイントをわかりやすく説明され、参考になりました。DRのあり方に悩みを持つ方に受講を薦めたい。
- DR・DRBFMの実際の正しい使用イメージを持つことができた。分かりやすく興味が持ちやすい説明でした。
- 「やめる基準を決める」という言葉が心に響いた。仕組みも大切なポイントと実感した。

■ プログラム		10:00~17:00	[昼食] 12:00~13:00
<b>1 製造現場からみた設計現場の課題や悩み</b>	(1)どのような課題があるのか (2)設計課題の事例紹介 (3)バックローディングが設計に与える影響 (4)ノウハウが会社に蓄積されていない		
<b>2 設計現場、製造現場の課題について考える</b>	<b>演習</b>		
<b>3 設計プロセスのあるべき姿</b>	(1)フロントローディング (2)コンカレントエンジニアリング (3)設計プロセスの事例紹介		
<b>4 設計品質向上策</b>	(1)「品質企画」と品質管理の目的を理解する (2)品質を保証する考え方の歴史の変遷 (3)品質企画があると手戻りがなくなる (4)品質企画のつくり込みとは (5)品質企画のための7つのツール		
<b>5 DR(Design Review)実践</b>	(1)DRとは (2)DRの課題紹介 (3)DRのあるべき姿 (4)DRの実施タイミング (5)DRでの検討内容 <b>演習</b> (6)あるべきDRと現状のGAPを確認		
<b>6 DRBFM(Design Review Based on Failure Mode)実践</b>	(1)DRBFMの定義 (2)DRBFMの誕生の経緯 (3)DRBFMの構成 (4)DRBFMの適切な検討時期 (5)DRBFMの内容		
<b>7 ~DRBFMを実践しよう~</b>	<b>演習</b> 実際の製品を用いた演習により、うまくいくための仕組みとコツをつかんでいただけます。		

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。